

IAUD Newsletter vol.8 第4号(2015年7月号)

1. グローバルインタビュー報告①	1
2. Universal Design And Development 2015 開催報告	6
3. IAUD アワード2015 応募受付中	8
4. UD 検定・中級公式テキストブック発刊及び第7回 UD 検定・初級実施のご案内	9
5. 「第5回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京」 論文集 好評販売中	9
6. IAUD 7月の予定	10



2020年に向けて日本に必要なUDとは グローバルインタビュー報告①

情報交流センターでは、2014年11月に開催された「第5回国際UD会議2014 in 福島&東京」において、海外からご参加いただいた有識者5名に、「UDのグローバル展開～東京2020オリンピック・パラリンピックへ向けて～」をテーマにしたグローバルインタビューを実施しました。

各有識者の方々には、日本のUDへの印象、出身国や活動されている国のUD状況及び日本との比較、さらに2020年に向けて日本の将来のUDに必要なことは何かなど伺いました。

ご多忙の中、インタビューを快く引き受けていただいた皆様には貴重なご意見を頂戴し、心より感謝いたします。

Newsletterでは5名の有識者インタビューの内容を今号と次号の2回にわたりお伝えします。

今号は、インマ・ボネット氏(デザインフォーオール財団最高顧問:スペイン)、フェルナンダ・ジョルダニ・バルボサ・ハラダ氏(人間中心デザイン研究所客員デザイン研究員:米国)、マリ・ア・ベンクソン氏(ヴェリデイ代表:スウェーデン)のインタビューを掲載します。(インタビュアー:情報交流センター所長 北村和明)

人間の多様性を受け入れることがカタルーニャ地方の人々の考えの一部

グローバルインタビュー1: インマ・ボネット氏(デザインフォーオール財団最高顧問:スペイン)

日時:2014年11月12日 12:00～

—ご自身の国のUDの特徴を聞かせて下さい。(誇れる点や広めた点)



スペインの中でも特にカタルーニャ地方についてお話をさせてください。

ヨーロッパにおいてはUDと呼ばずに、デザインフォーオールという呼び方をしており、これをベースに話をしていきたいと思えます。

まず日本との違いは、法律に基づいて行っているという点です。

日本は必ずしも法律があるから行っている訳ではないと思えますが、我々は企業にしてもビジネスにしても、法律があるから取

組んでおり、その点が大きな違いであると思います。

また、カタルーニャ地方の場合は人間のダイバーシティに対応している事を重要視しています。人間の多様性すべての面を受け入れることが、彼らにとっては考えの一部になっていません。

2006年の第2回国際会議にも参加しましたが、今回の国際会議は大きく進展、進化している印象があります。

カタルーニャ地方で企業としてUDに興味を持っている会社はかなり少ないので、いろいろな会社を集めて大きな会議を行う事自体ができません。日本では様々な会社が興味を持っているので、企業の協賛も得てこのような大きな国際会議を開催できる、この点が日本との大きな違いだと思います。

—ご自身の国と比較して、日本のUDの印象はいかがですか？

カタルーニャ地方の場合は先ほど申し上げたように、法律があるからやっているという点があると思うのですが、日本の場合は感情的、精神的に必要であると感じている、もしくは会社の責任においてしなければならない、という意識で動いているという印象です。

また、日本の会社案内などには会社のUDへの取り組みが明記されておりますが、カタルーニャ地方の場合は、特にそのような事はありません。

—2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。今回の国際会議のテーマにもなっていますが、海外の方から見て、グローバル、UDの観点で2020年に向けてのご意見やアドバイス、街づくりやIAUDへの期待も含めて教えてください。

アドバイスとしては、開催する準備にあたり、できるだけ多くの方を巻き込んでいく必要があると思います。多くの方が参加する事によって、国民が両方のイベントが重要であるという意識を持てるような取り組みにしていく事が重要だと思います。(了)

日本人の暖かい心やおもてなしがグローバルなUDを確立する

グローバルインタビュー2: フェルナンダ・ジョルダニ・バルボサ・ハラダ氏

(人間中心デザイン研究所客員デザイン研究員: 米国)

日時: 2014年11月12日 12:20~

—ご自身の国のUDについて特徴をお聞かせください。(誇れる点や既に普及している点)



私は現在アメリカに住んでいますが、出身はブラジルです。

ブラジルには、UDによる空間や製品、またこの問題に関する研究の実施、あるいは政策や環境の変更について必要性を訴えている人たちもいます。

しかし、人口からすればまだ一部に限られています。建築家やデザイナーなど関係する職業の人たちですね。

UD自体の理解はもっと広まっていると思いますが、UDはまだサンパウロなどの大都市に限られ、変化は小規模な一部のものに留まっています。

ブラジルは非常に大きな国ですから、こうした変化がもっと広がり、単なる物理的変化を超えて、人々の態度的行動や知識、政策にも及ぶべきだと思います。

幸い、インクルーシブな空間づくりの推進を意図した規則(法律)はありますし、触発された人々がUDに基づく空間と姿勢(全体のコンセプトとして)の推進を提唱しています。でもまだ始まったばかりです。

私が知る限り、アメリカの方がUDの問題に長く注目してきました。ですから、理解が深くアクセシブルな場所も多いですし、障害をもつ人々をあらゆる点で差別から守るADA(障害をもつアメリカ人法)などの法律もあります。

—アメリカの場合もUDは法律に従って進められているのでしょうか。

ADAは1991年に制定され、以来アクセシビリティの理解の向上に寄与しており、UDの基準となっています。そういうわけで、社会的、物理的インクルージョンを推進すべく人々の行動を変容させてきました。

ただ、UDに対応しているのが単に法律だけとは考えられません。それは動的な思考プロセスだからです。

むしろ、場所、物事、情報、コミュニケーション、政策を設計するための枠組みであると言えます。私はこれが世界中で共通の枠組みとなること、今後何を作ってもインクルージョンの概念が基本になることを期待しています。そもそも誰もがお互い違っているのですから。

—アメリカやブラジルと比べて日本のUDの印象はいかがでしょう。

日本に来たのはこれが初めてです。本で読んだり、来日経験のある友人たちから聞いたりして少し知識もあり、優れた対応策やインクルーシブな空間を前もって想定していましたが、実際に見るとやはり驚きますね。

アクセシブルな歩道から、コミュニケーションが言葉だけでなく単純で分かりやすい絵文字によっても可能だということを示す標識まで、どこへ行っても素晴らしいソリューションに出会いました。

例えば、(国際会議会場)隣の科学未来館で見た優れた案内表示には感心しました。入館すると、床にしるしがありエレベーターの場所がすぐ分かるようになっていて、自分がどこにいるか容易に把握できたのです。個人的にはもっと大きく描かれていればさらに分かりやすかったらと思うのですが、標示のコンセプトは秀逸だと思いました。

とは言え、どんな場合でも改善点はあるもので、日本でもやはり良いデザインと悪いデザインが混じっていると思います。

例えば、私は東京に来た初日に、ホテルからお寺と公園に行こうとして道に迷ってしまいました。時間が3時間しかなく地図を一枚持っていただけだったので、迷うのは心配でした。

でも、通りの標識は全部日本語で記されていて、何と書いてあるか全く分かりません。自分で道を知る手段は他に無く、迷わないためには歩いたブロックを数えて自分が地図上のどこにいるかを見失わないようにするしかない、と気づきました。結局は景色に目を奪われて、ブロックの数が分からなくなりましたけどね。

外国人や観光客向けの対応として、例えば英語の標識を設置すると良いのではないのでしょうか。そうした標識があれば、自分のいる場所を把握しやすかったと思います。

—2020年に東京でオリンピックとパラリンピックが開催されます。これは今回の会議のテーマでもありますが、海外の方の視点から、2020年に向けたグローバルUDの構築について、都市計画やIAUDへの期待を含めご意見やアドバイスを聞かせください。



ハラダ氏(左)と北村所長

東京オリンピックとパラリンピックをこの会議のテーマに選んだのは素晴らしいことだと思います。日本をさらにアクセシブルで皆に好意的な国にしようという熱意の表れですね。

UD の概念を基に改善を行うということは、デザインが広い範囲の人々に届き、自信、快適さ、統制感をもたらすことを意味します。

海外からの訪問客はオリンピックとパラリンピックを観戦するだけでなく、公共交通機関を利用し、飲食や観光も行います。ですから何か変更を考えるなら、空間をよりインクルーシブなものとするため、態度的行動や政策、環境、情報、コミュニケーションなどあらゆる面を分析し、より利用者にやさしい対策と設備を用意して国外からの訪問客を迎えることを目指すべきでしょう。

環境面を変えること以外に、言語は取り組むべき大きな問題です。言葉以外の要素を利用した何か別の種類の対応が可能な良いインターフェイスがあれば、街中でさまざまな活動に参加する多くの観光客を助け、支援できるでしょう。

日本は日本人という膨大な人的資源を活用すべきだと思っています。私は滞在中さまざまな状況で人と会い、その見事なおもてなしを経験する素晴らしい機会を得ました。どこへ行っても皆親切で、私たちを温かく迎えてくれました。

私が思うに、2020年までにグローバルUDを確立するにあたり、日本の人的資源が大いに国の助けになるでしょう。人の行動は変えるのが最も難しいものの一つですが、それは確実にもう日本に存在しています。(了)

日本が様々な面でよりインクルーシブな都市に変わっていくことに期待

グローバルインタビュー3: マリア・ベンクソン氏 (ヴェリデイ代表: スウェーデン)

日時: 2014年11月12日 12:40~

—ご自身の国のUDの特徴を聞かせて下さい。



障害者向けというような捉え方からインクルーシブという方向に動いて来ていると思います。

社会的、文化的に違いや問題があったとしても、全てインクルーシブに社会の中に取り込んでいこうという動きが出てきていると思います。

国としてもデザインフォーオールという考え方があり、支える土台となっているのが国連の規定です。それをベースに皆が均等な機会を持てるように、という考え方です。

—具体的にUDを広めていくにはどのような手段を取られていますか？

政府としては、1999年に計画された障害に関するポリシーというものがああり、全ての人は同じ機会を持つ(機会均等)という事で、これは言わば差別というものに対する戦い、という言い方をしても良いかと思います。

日常の中では、自立して生活するということ、障害となっているものを取り除くなどアクセシビリティを高めていく事が行われています。

政府は、アクションプラン(2011年~2016年5か年の行動計画)を出しており、その中で政府としては何をやっていけばいいのかが書かれています。

これを通じていろいろな事が達成できていますが、まだやらなければならない事も多々残っているといった状況です。

そのやらなければならない事は9つの分野に分かれており、これらに力を入れていく事にな

っています。

9つの分野を挙げますと、1.仕事、2.教育、3.安全、4.健康、5.アクセシビリティ、6.旅行・輸送、7.インターネット、8.文化・新聞・スポーツ、9.警察・裁判所関係、になります。

教育を例に申し上げますと、学校において難読症など学習障害を持つ子供達を支援して、学びやすくなるよう対策を行っています。

スウェーデンの国の機関では、障害に関するポリシーが社会の全てに普及するよう監視する役割をしています。それにより、どんな人でも完全に社会に参加できるようにしていきたいと思えます。

この5カ年計画については、終了したら結果報告される事になっています。

—今回の国際会議に参加されて、日本のUDの印象はいかがででしょうか？

横浜で開催された2002年の会議にも参加しましたが、私の印象は、本当に目標に向かって動いており、物事が実現していると感じています。

審査委員会の委員長をされているロジャー・コールマン教授も、「日本は非常にUDが進化している」とおっしゃっており、私が感じた印象を確認できました。

—2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、街のあり方やIAUDへの期待など、ご意見をいただければと思います。

今回の会議に参加して皆さんが演壇で話されている内容を聞き、色々なことを学びました。

東京はずばらしい機会に恵まれており、大きな可能性を感じております。UDの効果を使い、更に良くする事ができると感じています。

—IAUDとしては、いろいろワークショップなどを重ねて2020年に向けて提言していきたいと思っておりますが、IAUDに対しての期待というものはありますか？

今までIAUDが重ねてきた様々な実績を考えてみますと、非常に大きな影響をもたらす事ができると信じています。

2020年の開催後に残された遺産、例えば住宅とか交通など様々な面でメリットとなっていくのではないかと思います。

また、オリンピック・パラリンピックに備える事によって、もっと東京がインクルーシヴな都市に変わっていくのではないかと思います。(了)

ここまで3名の方のインタビューをお伝えしました。

次号のNewsletter vol.8 第5号(2015年8月号)では、グローバルインタビュー②として、リカルド・ゴメス氏(サンフランシスコ州立大学教授:米国)「人種、文化、経済等の違いでUDの意味や利用法は変わってくる」、シルヴィオ・サグラモラ氏(欧州障害フォーラム代表:ルクセンブルク)「日本のUDは大変高い水準にあるが、標識などの情報面の強化をしてほしい」を掲載します。ご期待ください。



※これまで実施したグローバルインタビューはこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/globalnet/index.php>

実社会に役立つ UD の普及を目指して インド初の UD 国際会議 UDAD2015 開催報告

インド初の UD に関する国際会議「Universal Design And Development (UDAD) 2015」(DJ デザインアカデミー主催)が、3月13日と14日にインド南部のコインバートル市で開催されました。

UDAD2015 開催の報告にあたり、DJ デザインアカデミーのシンガナパリ・バララム教授より紹介文を頂戴しましたので、掲載いたします。



UDAD2015 パネルディスカッションの様子



バララム教授

本来人間は十人十色。左利きからトランスジェンダーまで、体、心、そして性的指向も様々です。

また、歳を重ねるにつれて人間の能力は変わります。生きていれば痩せたり、太ったり、妊娠したり、太鼓腹になったり、背中が曲がったり、老いたり、身体と心は常に変化します。また、臓器や五感に機能低下があると能力に差異が生じます。

モダンデザインは、人間を中心に据えて周囲の物理、認識環境を形作る仕事として誕生しました。しかし、今日世界に広まっているデザインのほとんどは、「能力の異なる人々がいる」という現実を無視し、いわゆる「健常者」のみに対応するものとなっています。

現代生活の圧力により、能力の異なる人々の数は世界で着実に増えています。インドのような人口大国ではなおさらです。インドの場合、2014年では高齢者は約1億2500万人、視覚障害者は約6300万人、それ以外の能力の異なる人も多数います。こうした莫大な人数のニーズは世界的な問題であり、もはやデザイナーや建築家が看過できるものではありません。

UDとは、こうした問題を解決して状況を改善し、万人に公平をもたらす、あらゆる違いをそのまま受け入れて人間社会を統合する取り組みです。

よく間違われるので敢えて申し上げますが、UDは障害者のためのデザインではありません。

UDとは、多様な人々、つまり「健常」能力を持つ人々のみならず、能力の異なる人々や補助が必要な障害を持つ人々も同じく使うことができ、すべての人々に恩恵が行きわたるインクルーシブな社会を実現するモノやサービスをデザインし、問題を解決することです。

例えば、視覚障害者が英語を読める点字は障害者向けデザインですが、高齢者、視覚障害者、左利き、右利きを問わず誰でも使える簡単な杖はUDです。

ノーベル賞を受賞した偉大なインドの詩人ラビンドラナート・タゴールはいみじくも次のように言っています。「大切なのは違いを一掃することではなく、どのように違いをそのまま受け入れて融合するかである」。

インドのデザインの現状を見ると、次の3つの重要な課題があることが分かります。

第1に、インドのデザインはかなり初期段階にあること。インドがデザインのパワーとポテンシャルに目覚めたのはごく最近のことです。世界や国内へのデザインの影響という意味でも、デザイナーの輩出数でもインドはかなり遅れています。

第2に、インドは類を見ない多元的国家であるということ。文化、言語、信仰、教育に大差がある膨大な人数に、基本的な生活必需品を民主的に提供する中で、「発展」という重圧に立ち向

かいつつ複数の分野で戦いを強いられています。デザインは、こうしたかなり複雑な社会政治的状况の中で機能しなければなりません。

第3に、世界第2の人口大国、かつ障害者や恵まれない人が最も多いインドでは、UDはまだ雲の上のものであるということ。今すぐにも国内の建築家やデザイナー、デザインを学ぶ学生を広く啓蒙する必要に迫られています。



学生によるUDプロジェクトのパネル展示

インドでUDの正規課程があるデザインスクールや建築学部は、DJデザインアカデミーのみです。

インドは世界有数の豊かな名所旧跡に恵まれた国ですが、高齢者や身体の不自由な人は名所旧跡には一切行けません。学校、商店、公園、劇場、病院などほとんどのパブリックスペースも同じです。住宅に関してはなおさらです。文化が深く根づいている広大な国インドのデザイナーや建築家、プランナー、行政は、人間開発のこうした側面を完全に見落としていました。

こうした事情から、発展途上国の例に漏れず、UDについて啓蒙することがインドの差し迫った問題です。

上記の第2の問題はUDとの関連性です。他の多くの「多数派世界」、つまり発展途上諸国と同じく、豊かな先進諸国に適用されるUDの原則は、物理的、経済的、社会文化的背景が全く異なるインドでは通用しません。例えば、あらゆる活動がでこぼこの地面で行われる貧しい地方の家庭で、車椅子は役に立ちません。

こうした側面に気づいて憂慮したインドのデザイナーや思想家の団が、2011年にインド・UD原則(UDIP)をまとめました。

しかし、それだけでは足りないでしょう。なぜならば上記に挙げた第3の重要な問題であるUDの総合的見方があるからです。本物の「実社会に役立つUD」とは、物理的アクセス、生物学的機能低下や加齢、異常に対応することをはるかに超えるものです。

これまで世界で開催されたデザインフォーラムでは、この問題は一切扱われてきませんでした。現在のところ、UDの定義は、物理的アクセスと人間の生物学的不自由さのみに限定されています。

これは誤りであり正さなければなりません。なぜならば、開発の真の意味は、工業の発展だけでなく、経済、社会、政治、文化の発展も組み入れた人間開発だからです。

多くの「開発途上」国の例に漏れず、インド国民は、カースト制度による差別、飢え、貧困、宗教的憎悪、読み書き能力の不足、病気といった深刻な課題に直面しています。

こうした課題は、格差によるものであり、身体的不自由さを上回る重大な課題です。単に生物学的にインクルーシヴであっても、往々にして過酷さという点ではひけをとらないこうした問題を考えなければ意味がないでしょう。



講演を熱心に聞き入る参加者

UDは人道主義の問題であるだけでなく、人口の多い貧しい国でまだ認識されていない大きなビジネスチャンスでもあります。なぜならば、UDによって消費者層が10~12%も増えるからです。

豊かな国と比べて、複雑かつ豊かな国とは異なる上記の問題に簡単な解決策はありませんが、今こそ解決策が生まれるような方向で思索を開始しなければなりません。

こうした背景を踏まえ、DJ デザインアカデミーは、ブリティッシュ・カウンシルと提携して「Universal Design And Development 2015」と題する会議を2015年3月13日と14日の2日間にわたってコインバトル市で開催しました。

インドでUDの国際会議が開催されたのは今回が初めてです。会議では最終的に、「インド・UD協定」がまとめられ、インドの国内外に配布されました。

※UDAD2015の報告とバララム教授からの紹介文(原文)、「インド・UD協定」は以下のグローバルサイトをご覧ください。

<http://www.iaud.net/global/globalnet/archives/1507/09-000000.php>



快適で暮らしやすい UD 社会実現を推進

IAUD アワード 2015 応募受付中

IAUD は 5 回目となる「IAUD アワード 2015」の募集を開始いたしました。

IAUD アワードは、一人でも多くの方が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行っている団体・個人を表彰します。

UD において一定のレベルを満たしている応募対象には、「IAUD アワード」を授与し、UD の普及啓発にご活用いただける「IAUD アワード」マークの使用が可能となります。

応募締切は 7 月 17 日(金)です。皆様の応募をお待ちしております。



IAUD アワード 2014 表彰式の様子
(東京・お台場)

※詳細は下記 URL をご参照ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1504/20-000000.php>

※昨年度に実施した「IAUD アワード 2014」受賞内容は下記をご参照ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1411/12-000000.php>



UD 推進に必要な知識を習得

UD 検定・中級公式テキストブック発刊及び第 7 回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験実施のご案内

UD 検定・中級公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」が発刊されました。

本書は各専門分野の第一線で活躍する方々が執筆し、具体的な事例を含めた広範な UD の知見をまとめました。UD 検定・中級の試験問題は本書に準拠して出題されます。

また、検定受験者だけでなく、すべての人にとって使いやすい商品やサービスを提供したい、住みやすいまちづくりをめざしたい、とお考えの方々にも非常に役立ちます。UD に関心のある方は、ぜひ本書をご利用ください。



UD 検定・中級公式テキストブック

※公式テキストブックの詳細は以下をご参照ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1410/14-000000.php>

また、IAUD では「第 7 回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験」を 2015 年 9 月 11 日(金)に芝浦工業大学芝浦キャンパス(東京・芝浦)で実施します。

今回も、講習会(2 時間)と UD 検定・初級試験(1 時間・50 問)のセット形式です。

合格者には「UD 検定・初級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。



第 6 回 UD 検定・初級の様子
(東京・芝浦)

※第 7 回 UD 検定・初級 講習会 & 検定試験の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1505/19-100000.php>

「第 5 回国際 UD 会議 2014 in 福島 & 東京」論文集 好評販売中！

IAUD では、2014 年 11 月に開催された「第 5 回国際 UD 会議 2014 in 福島 & 東京」の論文発表セッションで口頭発表された査読論文を収録した論文集 CD-ROM(監修:人間中心デザイン研究所所長ヴァレリー・フレッチャー)を販売しております。

主なテーマは、オリンピック/パラリンピックへの提言、住宅・建築、交通、製品デザイン、地域デザインなどです。この機会にぜひご購入ください。



※詳細は以下をご覧ください。

<http://www.iaud.net/news-f/archives/1506/09-092621.php>



IAUD 7月の予定

7月9日現在

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8 10:00～ 第2回 UD 検定 中級検定試験 @芝浦工業大学 13:00～ メディア @CUDO 事務局 14:00～ ワークスタイル PJ @IAUD サロン	9 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	10 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン	11	12
13	14	15 14:00～ WS 委員会 @コクヨ	16	17 アワード 2015 応募締切	18	19
20 海の日	21	22	23	24 13:30～ 標準化 WG @日産自動車 16:00～ 手話用語 SWG @リコー	25	26
27	28	29	30	31		

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。
ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウムなどの開催情報をお寄せ下さい。

次号は 2015 年 8 月発行予定

特集:IAUD 中期計画概要、グローバルインタビュー報告②(予定)

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話 : 03-5541-5846 FAX : 03-5541-5847 e-mail : salon@iaud.net